

第13回アジア原子力協力フォーラム(FNCA) コーディネーター会合の結果概要について

平成24年3月13日
内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日:2012年3月7日(水)～3月9日(金)
2. 主催:内閣府、原子力委員会 共催:文部科学省、福井県
3. 開催場所:福井県国際交流会館(7、8日)、福井県若狭湾エネルギー研究センター(9日)
4. 参加国:FNCA参加12か国(オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム)、IAEA技術協力局RCA地域事務所代表(韓国)
(添付資料1:アジェンダ 添付資料2:出席者一覧)

5. 我が国の主な出席者:

西川 一誠 福井県知事
近藤 駿介 原子力委員会委員長
秋庭 悦子 原子力委員会委員
町 末男 FNCA日本コーディネーター



第13回FNCAコーディネーター会合出席者

5. 概要:

開会セッションでは、近藤原子力委員会委員長より開会挨拶が行われ、引き続き西川福井県知事より歓迎の挨拶が行われた。

まず東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関するオンサイト及びオフサイトに関する現状について、近藤原子力委員会委員長よりプレゼンテーションを行った。続いて、福井

県より、原子力発電と地域との関わりや、原子力事故に備えた地域における対応、原子力発電所だけでなく放射線利用施設を含む研究開発の拠点化計画が紹介された。

その後、FNCA において実施されている10プロジェクトの活動報告、評価及び今後の計画、並びに昨年12月に東京で行われた第12回 FNCA 大臣級会合のフォローアップ項目等に関する議論が行われた。その議論では、医療、農業及び工業分野への放射線利用に関するプロジェクトが有意義な社会経済的影響をもたらす顕著な成果を生み出していることが確認され、エンドユーザへの利用を促進するための成果の発信の強化について議論された。

また広報、人材育成に関しては、各国の関心も高く、活発な意見交換が行われ、今後の人材育成に関する提言が取りまとめられた。なお、「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」の第4回会合については、7月にタイで開催されることが承認され、特に原子力安全や緊急時対応、広報、人材育成に関する討議が希望された。

最後に今回の会合の結論と提言がまとめられた。

結論と提言の主なポイント(添付資料3:結論と提言(英文)、添付資料4:仮訳)

1. 東京電力福島第一原子力発電所事故に関し、各国における原子力安全確保の改善のために、日本が事故の教訓を各国と共有していくことが有益であるとの認識で一致した。
2. 東京電力福島第一原子力発電所事故後、メンバー国における広報活動の必要性が高まっていることから、FNCAにおける原子力発電の基盤整備に向けた検討パネルにおいて、広報活動を効果的に行うための情報や経験を共有すべきであるとの認識が合意された。
3. 原子力発電と放射線利用の健全かつ安全な利用と発展のために、人材育成は必要不可欠なものであることから、政府の支援によるそれらの人材育成の推進に向けて、人材養成(HRD)に関する提言が全会一致で採択された。
4. 医療用アイソトープ供給の改善のための地域ネットワークの設立が、政府の同意の下で推進されるべきであると合意された。RIの安定供給と価格安定のために、FNCAメンバー国の研究炉の保守点検期間の調整や、製造及び供給ネットワークの調整が重要であると認識された。また各メンバー国の需要に対応した新規研究炉の設計に関する協力も重要であると認識された。
5. がんの放射線治療、放射線育種、電子線加工、バイオ肥料、および中性子放射化分析等の原子力技術の利用促進のためのFNCAにおけるプロジェクトは、有意義な社会経済的影響をもたらす、顕著で明確な成果を生み出したことが確認された。
6. FNCAの活動と成果の国際社会への発信を強化するため、IAEA、科学・産業に関するジャーナル、インターネット、公開セミナー、およびシンポジウム等の手段を活用

した更なる努力が必要であることを確認された。

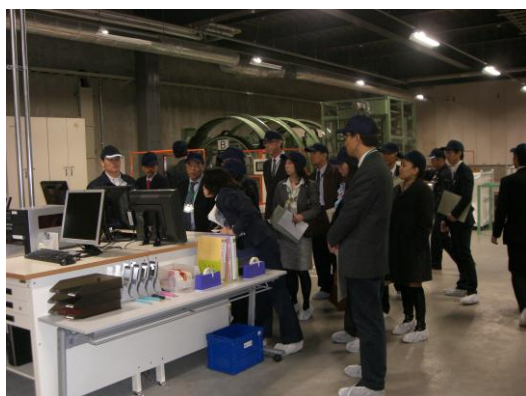
最終日には福井県及び福井県国際原子力人材育成センター主催にてアジア原子力人材育成会議が開催された。また、若狭湾エネルギー研究センター、原子力発電訓練センター（NTC）、関西電子ビーム（株）、美浜オフサイトセンターの見学を行い、各国と放射線利用や原子力発電所に関する知見や情報の共有を図った。



<若狭湾エネルギー研究センター>



<原子力発電訓練センター(NTC)>



<関西電子ビーム(株)>



<美浜オフサイトセンター>

以 上

第13回アジア原子力協力フォーラム(FNCA) コーディネーター会合プログラム

日時:2012年3月7日(水)～9日(金)
 場所:福井県国際交流会館 特別会議室 (3月7日(水)、8日(木))
 若狭湾エネルギー研究センター他 (3月9日(金))
 主催:内閣府、原子力委員会
 共催:文部科学省、福井県
 会合議長:町 末男 日本コーディネーター

3月7日(水)

- 9:00-9:10 記念撮影(プレスオープン) (10分)
- 9:10-9:40 セッション1: 開会セッション(プレスオープン) (30分)
 議長:町 末男 日本コーディネーター
 ・開会挨拶:近藤 駿介 原子力委員会委員長 (5分)
 ・歓迎挨拶:西川 一誠 福井県知事 (5分)
 ・参加者紹介 (15分)
 ・アジェンダの確認 (5分)
- 9:40-10:25 特別セッション1:東京電力福島第一原子力発電所事故後の
 オンサイトおよびオフサイトでの取組の現状について (45分)
 議長:町 末男 日本コーディネーター
 ・プレゼンテーション
 :近藤 駿介 原子力委員会委員長 (30分)
 ・質疑 (15分)
- 10:25-11:15 特別セッション2:原子力発電と地域の関わり (50分)
 議長:町 末男 日本コーディネーター
 ・プレゼンテーション1)「福井における原子力発電立地と原子力行政
 ～福井の特徴と事故後の対応～」
 :若狭湾エネルギー研究センター 来馬 克美 専務理事 (15分)
 ・プレゼンテーション2)「エネルギー研究開発拠点化計画
 ～福島第一原子力発電所事故を踏まえた充実～」
 :福井県電源地域振興課 清水 英男 課長 (15分)
 ・討議 (20分)
- 11:15-11:30 コーヒーブレイク (15分)
- 11:30-11:50 セッション2: 第12回FNCA大臣級会合報告 (20分)
 議長:タイ Dr. Somporn CHONGKUM
 ・報告(町 末男 コーディネーター) (10分)
 ・討議 (10分)

11:50-12:20 セッション 3: 原子力安全および核セキュリティ・保障措置強化 (30分)

議長: タイ Dr. Somporn CHONGKUM

(1) プロジェクトの成果報告 (30分)

1. 原子力安全マネジメントシステム (15分)

・報告(オーストラリア Mr. Peter McGLINN)及び質疑

2. 放射線安全・廃棄物管理 (15分)

・報告(東京大学 小佐古 敏荘 教授)及び質疑

12:20-14:00 ランチ

14:00-14:55 セッション 3: 原子力安全および核セキュリティ・保障措置強化(続き) (55分)

議長: カザフスタン Dr. Erlan G. BATYRBEBKOV

(1) プロジェクトの成果報告(続き) (15分)

3. 核セキュリティ・保障措置(15分)

・報告(JAEA 千崎 雅生 核不拡散・核セキュリティ総合支援センター長)及び質疑

(2) 第12回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議 (40分)

「原子力安全および核セキュリティ・保障措置に関わるプロジェクトを通じた原子力基盤の整備」

・リードスピーチ (JAEA 中村 武彦 安全研究センター 研究計画調整室長) (10分)

・討議 (30分)

14:55-15:45 セッション 4: 広報について

第12回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議 (50分)

議長: フィリピン Dr. Alumanda M. DELA ROSA

・リードスピーチ(秋庭原子力委員会委員) (10分)

・プレゼンテーション「福井原子力センターの広報活動」

：財団法人福井原子力センター 伊原 隆 広報課長 (10分)

・討議 (30分)

15:45-16:05 コーヒーブレイク (20分)

16:05-17:25 セッション 5: 人材養成 (80分)

議長: マレーシア Dr. Muhd Noor MUHD YUNUS

(1) プロジェクトの成果報告 (25分)

・報告(JAEA 山下 清信 原子力人材育成センター長) (10分)

・ベトナムにおける原子力発電に向けた人材養成戦略についてのプレゼンテーション (ベトナム Mr. NGUYEN Manh Hung) (10分)

・質疑 (5分)

(2) 第12回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議 (55分)

・リードスピーチ(町 末男 コーディネーター) (10分)

・討議 (45分)

3月8日(木)

9:00-9:40 セッション 6: 原子力発電の基盤整備に関するスタディパネルの成果と計画 (40分)

議長: ベトナム Prof. VUONG Huu Tan

- ・第3回報告及び第4回計画(主要議題等)
(内閣府 原子力政策担当室 濱田 早織 政策調査員)(10分)
- ・第4回計画(会場等)(タイ Mr. Samerjai SUKSUMEK)(10分)
- ・討議 (20分)

9:40-11:00 セッション 7: 研究炉利用開発 (80分)

議長: 中国 Mr. XU Zhixiong

(1) プロジェクトの成果報告 (40分)

1. 研究炉ネットワーク (25分)

- ・報告(JAEA 河村 弘 大洗研究開発センター副所長)(10分)
- ・インドネシアにおける研究炉利用とアイソトープ供給計画についての
プレゼンテーション(インドネシア Dr. Yudiutomo IMARDJOKO)(10分)
- ・質疑 (5分)

2. 中性子放射化分析 (15分)

- ・報告(首都大学 海老原 充 教授)及び質疑

(2) 第12回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議 (40分)

「アイソトープ製造・供給、研究活動および人材育成のための研究炉ネットワーク構築」

- ・リードスピーチ(町 末男 コーディネーター)(10分)
- ・討議 (30分)

11:00-11:20 コーヒーブレイク (20分)

11:20-12:15 セッション 8: 放射線利用開発 (55分)

(1) プロジェクトの成果報告 (55分)

議長: バングラデシュ Mr. Abu Sayed Mohammad FIROZ

(農業利用・産業利用)

1. 放射線育種 (15分)

- ・報告(静岡大学 中井 弘和 教授)及び質疑

2. バイオ肥料 (15分)

- ・報告(東京農工大 横山 正 教授)及び質疑

3. 電子加速器利用 (天然高分子の放射線加工)(25分)

- ・報告(JAEA 玉田 正男 ユニット長)(10分)
- ・作物成長促進剤に関するフィールド試験の結果についてのプレゼンテーション
(マレーシア Dr. Kamaruddin Bin HASHIM)(10分)
- ・質疑 (5分)

12:15-13:30 ランチ

- 13:30-15:30 **セッション 8: 放射線利用開発(続き) (120 分)**
(1)プロジェクトの成果報告(続き) (25 分)
議長: 韓国 Mr. CHOI Doo Yong
(健康利用)
4.放射線治療 (25 分)
・報告(放医研 辻井 博彦 フェロー) (10 分)
・子宮頸がんに対する治療効果についてのプレゼンテーション
(中国 Dr. CAO Jianping) (10 分)
・質疑 (5 分)
- (2)IAEA/RCAの活動報告と協力のあり方 (55 分)
議長: 韓国 Mr. CHOI Doo Yong
・リードスピーチ(町 末男 コーディネーター) (5 分)
・ビデオによる RCA の紹介 (10 分)
・プレゼンテーション
「RCA 活動についての紹介」
(IAEA RCA Dr. Mun-ki LEE) (10 分)
・協力に関する討議 (30 分)
- (3)第12回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議 (40 分)
議長: インドネシア Prof. Dr. Djarot Sulistio WISNUBROTO
「放射線・アイソトープ応用の実用化促進とエンドユーザとの連携強化」
・リードスピーチ (フィリピン Dr. Fortunato Tanseco DE LA PENA) (10 分)
・討議 (30 分)
- 15:30-16:10 **セッション 9: FNCAの今後の活動について (40 分)**
議長: オーストラリア Mr. Peter McGLINN
(1)第12回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議 (40 分)
「プロジェクト活動成果の国際社会への情報発信」について
・リードスピーチ(町 末男 コーディネーター) (10 分)
・討議 (30 分)
- 16:10-16:50 **コーヒーブレイク (40 分)**
- 16:50-17:20 **セッション 9: FNCAの今後の活動について(続き)(30 分)**
議長: オーストラリア Mr. Peter McGLINN
(2)2011 年成果評価と 2012 年活動計画 (30 分)
・リードスピーチ(町 末男 コーディネーター) (10 分)
・討議 (20 分)
- 17:20-18:05 **セッション 10: 閉会セッション (45 分)**
議長: モンゴル Prof. Dr. Suren DAVAA
・会合サマリの確認(日本、事務局) (40 分)
・閉会挨拶(町 末男 コーディネーター) (5 分)

3月9日(金)

- 10:00-11:30 **アジア原子力人材育成会議**
(主催: 福井県および福井県国際原子力人材育成センター、
於: 若狭湾エネルギー研究センター)
- ・開会挨拶(プレスオープン)
 : 福井県 満田 誉 副知事(5分)
 - ・プレゼンテーション「福井県国際原子力人材育成センターによる人材育成」
 : 河西俊一 福井県国際原子力人材育成センター長(15分)
 - ・円卓討議(65分)
 - ・閉会挨拶
 : 財団法人若狭湾エネルギー研究センター 旭 信昭 理事長(5分)
- 11:30-18:00 **原子力関係施設の見学**
- 若狭湾エネルギー研究センター(敦賀市)
 - 原子力発電訓練センター(NTC)(敦賀市)
 - 関西電子ビーム(美浜町)
 - 美浜オフサイトセンター(美浜町)

第13回FNCAコーディネーター会合参加者一覧

【海外出席者】

①オーストラリア

- 1) Mr. Peter McGLINN (ピーター・マックグリン)
オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)
国際関係シニアアドバイザー

②バングラデシュ

- 1) Mr. Abu Sayeed Mohammad FIROZ (アブ・サイード・モハンマド・フィロス)
バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 委員長
- 2) Mr. Md. Aowlad Hossain KHAN (モハマド・オーラド・ホサイン・カーン)
科学技術省 (MOST) 次官

③中国

- 1) Mr. XU Zhixiong (シュ・チーション)
中国国家原子能機構 (CAEA) 国際合作司副処長
- 2) Dr. CAO Jianping (ツァオ・ジェンピン)
蘇州大学核医学部医学放射線医学防護学院院長

④インドネシア

- 1) Prof. Dr. Djarot Sulistio WISNUBUROTO
(ジャロット・スリスティオ・ウィヌスブROTO)
インドネシア原子力庁 (BATAN) 副長官 (核物質サイクル技術・エンジニアリング担当)
- 2) Dr. Yudiantomo IMARDJOKO (ユディウトモ・イマルジョコ)
PT Batan Teknologi (Persero) 社社長

⑤カザフスタン

- 1) Dr. Erlan G. BATYRBKOV (エルラン・G・バティルベコフ)
カザフスタン国立原子力研究所 (NNC) 第一副総裁

⑥韓国

- 1) Mr. CHOI Doo Yong (チェ・ドヨン)
韓国教育科学技術部 (MEST) 宇宙原子力技術局副局長
- 2) Mr. JEONG Honghwa (チョン・ホンファ)
韓国原子力国際協力財団 (KONICOF) プロジェクトマネージャー

⑦マレーシア

- 1) Dr. Muhd. Noor MUHD YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia) 副長官 (研究技術部門)
- 2) Dr. Kamaruddin BIN HASHIM (カマルディン・ハシム)
マレーシア原子力庁 (Nuclear Malaysia)
マレーシア原子力庁放射線加工技術部部長

⑧モンゴル

- 1) Prof. Dr. Suren DAVAA (シュレン・ダヴァア)
モンゴル原子力庁 (NEA) 原子力研究センター長
- 2) Ms. Gantuya DULAANJARGAL (ガンチューヤ・ドゥラーンジャルガル)
モンゴル原子力庁 (NEA) 国際協力部

⑨フィリピン

- 1) Dr. Fortunato Tanseco DE LA PENA (フォルナート・タンセコ・デ・ラ・ペナ)
科学技術省 (DOST) 次官
- 2) Dr. Alumanda M. DELA ROSA (アルマンダ・M・デラ・ローサ)
フィリピン原子力研究所 (PNRI) 所長

⑩タイ

- 1) Dr. Somporn CHONGKUM (ソンポーン・チョンクム)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 所長
- 2) Mr. Samerjai SUKSUMEK (サメルジャイ・スクスメック)
タイエネルギー省エネルギー政策計画局 電力政策部部長
- 3) Ms. Kanchalika DECHATES (カンチャリカ・デチャテス)
タイ原子力技術研究所 (TINT) 国際協力部部長

⑪ベトナム

- 1) Prof. VUONG Huu Tan (ヴォン・フー・タン)
ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 所長
- 2) Mr. NGUYEN Manh Hung (グエン・マン・フン)
ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 原子力訓練センター副センター長

⑫国際原子力機関 (IAEA)

- 1) Dr. LEE Mun-ki (イ・ムンキ)
国際原子力機関 (IAEA) アジア原子力地域協力協定 (RCA)
地域オフィス部長

【国内出席者】

①町 末男

FNCA 日本コーディネーター（元原子力委員会委員）

②中井 弘和（放射線育種）

静岡大学名誉教授 元副学長

③横山 正（バイオ利用）

東京農工大学大学院 農学研究院 生物生産科学部門 教授

④玉田 正男（電子加速器利用）

独立行政法人日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
環境・産業応用量子ビーム技術研究ユニット ユニット長

⑤辻井 博彦（放射線治療）

独立行政法人放射線医学総合研究所 フェロー

⑥河村 弘（研究炉ネットワーク）

独立行政法人日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター 副所長

⑦海老原 充（中性子放射化分析）

首都大学東京大学院 理工学研究科 分子物質化学専攻 教授

⑧中村 武彦（原子力安全マネジメントシステム）

独立行政法人日本原子力研究開発機構
安全研究センター 研究計画調整室 室長

⑨小佐古 敏荘（放射線安全・廃棄物管理）

東京大学大学院 工学系研究科 原子力専攻 教授

⑩山下 清信（人材養成）

独立行政法人日本原子力研究開発機構
原子力人材育成センター センター長

⑪千崎 雅生（核セキュリティ・保障措置）

独立行政法人日本原子力研究開発機構
核不拡散・核セキュリティ総合支援センター センター長

⑫来馬 克美

財団法人若狭湾エネルギー研究センター 専務理事

⑬清水 英男

福井県総合政策部電源地域振興課 課長

⑭伊原 隆

財団法人福井原子力センター 広報課長

○このほか、西川一誠福井県知事、近藤駿介原子力委員会委員長、秋庭悦子原子力委員会委員、濱田内閣府原子力政策担当室政策調査員及び中田栄介文部科学省原子力国際協力室室長補佐が出席。

The 13th FNCA Coordinators Meeting Conclusions and Recommendation

March 8th 2012, Fukui, Japan

1. With regards to the accident at the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station, all member countries expressed their wish that Japan should fully share lessons learned from the accident, which is useful for improving their assurance of nuclear safety.
2. The meeting took note that the Fukui Prefecture is a good model of successful stakeholder involvement and the development of a local community hosting nuclear power stations and relevant facilities for HRD.
3. It was agreed that the assurance of safety, security and safeguards is a prerequisite for the utilization of nuclear power and radiation technology. The FNCA project on Nuclear Security and Safeguards provides an effective platform to share experiences, knowledge and information on nuclear security and safeguards.
4. The meeting noted that the FNCA projects for developing infrastructure, such as nuclear safety management, radiation safety and waste management, research reactor network, nuclear security and safeguards, and human resource development are contributing to strengthening infrastructure in the development of atomic energy utilization with a high level of safety.
5. It was agreed that the public information activities are much needed in the member countries after the accident of the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station and the FNCA Study Panel on Nuclear Power Infrastructure Development should provide an opportunity for sharing experiences and information of effective public information programs.
6. Special recommendations on nuclear HRD (Attachment 1) were adopted by consensus in order for member countries to promote HRD for nuclear power and radiation application programs with the support of the government taking into account that human resources are essential for sound and safe utilization and development of nuclear energy and radiation applications.
7. It was agreed that the establishment of the regional network for improving the assurance of the supply of medical isotopes should be promoted with the endorsement of government. It was also recognized that the coordination of the production network and distribution network, and of the maintenance schedules of research reactors among the FNCA member countries, is important for the stable supply and price of RI. Besides the assurance of the RI supply, collaboration on the design of new research reactors to meet demands in the member countries is also important.

8. The meeting noted that the FNCA projects on the promotion of applications of nuclear technology, such as radio-therapy for cancer, mutation breeding, electron beam processing, bio-fertilizer, and neutron activation analysis have remarkable and tangible results with significant socio-economic impact.
9. It was agreed unanimously that every effort should be made to enhance application of the outcomes of the FNCA projects in achieving the socio-economic benefits in collaboration with relevant ministries and potential end-users in each country.
10. The proposal of organizing nuclear agriculture management seminars in possible collaboration with RCA/IAEA, to disseminate the outcomes of FNCA projects relevant to agriculture, was approved by the meeting.
11. It was recognized that further effort is needed for improving the outreach of FNCA activities and achievements to the international community through mechanisms such as the IAEA , scientific and industrial journals, the internet, and open seminars and symposia.
12. The meeting agreed on the plan for FY 2012 of the FNCA activities including host countries for the ministerial level meeting, the study panel meeting, and project workshops (Attachment 2).
13. It was agreed to extend the projects, electron accelerator application and biofertilizer, for another 3 years and to continue all other current projects.

Recommendations

**on Human Resource Development
13th FNCA Coordinators Meeting**

**Fukui, Japan
March 7th, 2012**

We, FNCA Coordinators of member countries, the Commonwealth of Australia, the People's Republic of Bangladesh, the People's Republic of China, the Republic of Indonesia, Japan, the Republic of Kazakhstan, the Republic of Korea, Malaysia, Mongolia, the Republic of the Philippines, the Kingdom of Thailand, and the Socialist Republic of Viet Nam, make recommendations to report to the FNCA Ministerial Level Meeting in 2012 for enhancing Human Resource Development (HRD) in FNCA member countries.

We, FNCA Coordinators of member countries,

1. Recognizing that most FNCA member countries have the strategy to introduce nuclear power plant that requires many kinds of infrastructure developments, and that the HRD is essential infrastructure to implement nuclear power programs efficiently and appropriately,
2. Recognizing that some FNCA member countries are not considering the introduction of nuclear power as part of their energy mix, but have a strong commitment to the other peaceful applications of nuclear science and technology in the country and developing HRD to support those applications,
3. Recalling that each country is responsible for implementing HRD for radiation applications and nuclear power programs in the country,

4. Recognizing some countries need assistance from more experienced countries concerning HRD,
5. Recalling that the significance of HRD for developing and implementing radiation applications and nuclear power programs was discussed at the FNCA Ministerial Level Meeting held on 16 December 2011 in Tokyo,
6. Reaffirming the conclusion and recommendation of the FNCA HRD project Workshop in 2011 that each government should provide funds for the own HRD, including training abroad when it is required,
7. Recalling FNCA member countries have jointly pursued effective HRD activities through ANTEP,
8. Recognizing the strategy for nuclear HRD should be formulated and implemented by each FNCA country to meet its specific needs.

Agreed to stress the importance of following issues;

1. Each government of those FNCA member countries formulates a national HRD strategy for radiation applications and nuclear power programs and provides funding, together with other related organizations, for radiation applications and nuclear power programs,
2. For effective formulation and efficient implementation of the national HRD plan, each government of those FNCA member countries establishes a national network of HRD of all related organizations for radiation applications and nuclear power programs,
3. Each country's network collects and assesses its HRD needs in the country, defines the specific programs which needs support from abroad due to inadequate expertise in their country, and formulates a concrete national HRD plan for radiation applications and nuclear power programs,

4. The FNCA coordinators and HRD project leaders review the ANTEP implementation process and propose possible changes to improve efficiency and better meet the needs of FNCA countries,
5. A focal point is established within each country's network for coordination of its HRD plan with international cooperation to support its national HRD,

and decided to report the recommendations to the FNCA Ministerial Level Meeting in 2012 with a view to enhancing HRD in the FNCA member countries.

Afterword;

The Coordinators Meeting anticipates the following;

1. Taking appropriate actions in each country, according to the recommendations, after this Coordinators Meeting,
2. Reporting each country's progress on undertaking these actions, analysis of their impact, and future plans toward realizing the recommendations at the FNCA Ministerial Level Meeting in 2012.

Host Country of Workshop of Project in FY 2012

Host country and project:

1. Mutation breeding: Malaysia, Feb. 2013
2. Bio-fertilizer: China, Jul. 2012 (upon confirmation)
3. Electron beam application for natural polymers: Kazakhstan, Oct. 2012
4. Radiation oncology: Thailand, Jan. 2013
5. Neutron activation analysis application: Vietnam Aug. 2012
6. Research reactor network: Indonesia, Sept. 2012
7. Radiation safety and waste management: The Philippines, Jan. 2013
8. Nuclear safety management system: Bangladesh/Korea (TBD), Nov. 2012
9. Nuclear security and safe guard: Vietnam, Dec. 2012
10. Human Resource Development: China, Sept. 2012

第 13 回 FNCA コーディネーター会合

結論と提言（仮訳）

2012 年 3 月 8 日

1. 東京電力福島第一原子力発電所事故に関し、各国における原子力安全確保の改善のために、日本が事故の教訓を各国と共有していくことが有益であるとの認識で一致した。
2. 福井県が関係者と良好な連携を持ち、原子力発電所や人材養成（HRD）に役立つ関連施設を誘致することによって地域の発展につなげた良い事例であることが確認された。
3. 原子力安全、核セキュリティ、および保障措置を確実にすることは、原子力利用や放射線利用の前提であることが合意された。FNCA における核セキュリティ・保障措置プロジェクトは、核セキュリティや保障措置に関する経験、知識、および情報を効果的に共有する場を提供する。
4. 原子力安全マネジメントシステム、放射線安全・廃棄物管理、研究炉ネットワーク、核セキュリティ・保障措置、人材養成等の FNCA におけるプロジェクトが、高い安全性を確保しつつ原子力利用を推進するための基盤強化に寄与することが認識された。
5. 東京電力福島第一原子力発電所事故後、メンバー国における広報活動の必要性が高まっていることから、FNCA における原子力発電の基盤整備に向けた検討パネルにおいて、広報活動を効果的に行うための情報や経験を共有すべきであるとの認識が合意された。
6. 原子力発電と放射線利用の健全かつ安全な利用と発展のために、人材育成は必要不可欠なものであることから、政府の支援によるそれらの人材育成の推進に向けて、人材養成（HRD）に関する提言（別紙 1）が全会一致で採択された。
7. 医療用アイソトープ供給の改善のための地域ネットワークの設立が、政府の同意の下で推進されるべきであると合意された。RI の安定供給と価格安定のために、FNCA メンバー国の研究炉の保守点検期間の調整や、製造及び供給ネットワークの調整が重要であると認識された。また各メンバー国の需要に対応した新規研究炉の設計に関する協力も重要であると認識された。
8. がんの放射線治療、放射線育種、電子線加工、バイオ肥料、および中性子放射化分析等の原子力技術の利用促進のための FNCA におけるプロジェクトは、有意義な社会経済的影響を

もたらず、顕著で明確な成果を生み出したことが確認された。

9. 各国における関係省庁および潜在的エンドユーザーとの連携によって、社会経済的利益の達成に向け、FNCAにおけるプロジェクト成果の活用促進のための努力をすべきであることが全会一致で合意された。
10. FNCAにおける農業関連プロジェクトの成果を普及させるためのIAEA/RCAとの可能な協力として、放射線利用農業マネジメントセミナーを開催する提案が承認された。
11. FNCAの活動と成果の国際社会への発信を強化するため、IAEA、科学・産業に関するジャーナル、インターネット、公開セミナー、およびシンポジウム等の手段を活用した更なる努力が必要であることを確認された。
12. 大臣級会合、検討パネル、およびプロジェクトのワークショップの開催国（別紙2）を含む2012年度の活動計画が合意された。
13. 電子加速器利用およびバイオ肥料の両プロジェクトの活動を3年延長すること、及び他のプロジェクト活動を継続することが合意された。

人材育成に関する提言 (仮訳)

13 回 FNCA コーディネーター会合

2012 年 3 月 7 日

我々 FNCA 参加国、(オーストラリア連邦、バングラデシュ人民共和国、中華人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、タイ王国、およびベトナム社会主義共和国) のコーディネーターは各国における人材育成を強化するために、2012 年の大臣級会合に報告すべき提言を作成する。

我々 FNCA 参加国のコーディネーターは、

1. FNCA 参加国の多くが原子力発電の導入計画を有しており、その導入に多くの基盤整備が必要であること、また導入計画の効果的かつ適切な実施に人材育成が不可欠な基盤であることを認識し、
2. いくつかの FNCA 参加国はエネルギーミックスの一部として原子力発電の導入を検討していないが、発電以外の原子力科学技術の平和利用を強く指向し、そのための人材育成を進めていることを認識し、
3. 各国の放射線利用および原子力発電計画のための人材育成は、各国の責任において実施するという事を思い起こし、

4. いくつかの国は人材育成に関してより多くの経験を有する国の支援を必要としていることを認識し、
5. 2011年12月16日に開催されたFNCA大臣級会合において、放射線利用および原子力発電計画の進展および実施における人材育成の重要性が議論されたことを思い起こし、
6. 各国政府は、それが必要とされるときには海外での教育・訓練を含め、人材育成のための予算を確保すべきであるという結論と提言が2011年の人材育成プロジェクトのワークショップにてなされたことを認識し、
7. FNCA参加国がANTEPを通じて、効果的な人材育成を連携して追及してきたことを思い起こし、
8. 原子力人材育成戦略は各国のニーズに合うように各国により策定、実施されるべきであることを認識し、

以下の事項の重要性を強調することに同意し、

1. FNCA参加各国の政府は、放射線利用および原子力発電計画のための人材育成戦略を策定し、他の関係組織とともに放射線利用および原子力発電計画に必要な予算を準備すること
2. 人材育成計画の効果的な策定、効率的な実行のために、FNCA参加各国の政府は、放射線利用および原子力発電計画に関わる全ての組織とともに人材育成ネットワークを設立すること
3. 各国のネットワークは、人材育成に関する国内のニーズを集め、評価し、専門的知見の不足のために他国の支援を必要とするプログラムを明確にし、放射線利用および原子力発電計画のための具体的な人材育成計画を策定すること
4. FNCAのコーディネーターとHRDプロジェクトのリーダーはANTEPの運用を評価すること、またFNCA各国のニーズをよりよ

く反映し、効率的に運用するために取りうる改善方法を提案すること

5. 各国の人材育成戦略とそれを支援する国際協力の調整のために各国のネットワークには単一の窓口を設置すること

FNCA 参加国における人材育成を強化するために、この提言を 2012 年の FNCA 大臣級会合に報告することを決定した。

後書；コーディネーター会合は各国に以下の活動を期待する。

1. 本コーディネーター会合後、この提言に基づいて各国において適切な行動をとること
2. この提言の実現に向けて各国の活動の進捗、その活動の分析、および計画について 2012 年の大臣級会合で報告すること

2012年 FNCA プロジェクトとワークショップ開催国 (仮訳)

1. 放射線育種：マレーシア、2013年2月
2. バイオ肥料：中国、2012年7月（確認中）
3. 天然高分子の放射線加工：カザフスタン、2012年10月
4. 放射線治療：タイ、2013年1月
5. 中性子放射化分析：ベトナム、2012年8月
6. 研究炉ネットワーク：インドネシア、2012年9月
7. 放射線安全・廃棄物管理：フィリピン、2013年1月
8. 原子力安全マネジメントシステム：バングラデッシュ／韓国（協議中）、2012年11月
9. 核セキュリティ・保障措置：ベトナム、2012年12月
10. 人材育成：中国、2012年9月